

| | | | | | | |
|----------------------------|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|
| 研究代表者氏名 | 福 田 正 己 | | | 研究組織 | 3 人 | |
| 所属機関・部局・職 | 北海道大学・低温科学研究所・教授 | | | 所属機関所在地 | 札幌市 | |
| 研究課題名 | 地球温暖化と永久凍土融解の相互影響についての研究 | | | | | |
| 研究の概要等 | <p>IPCC2001 による地球温暖化将来予測では、シベリア永久凍土地域でのタイガ（針葉樹林）が二酸化炭素の吸収源としての機能の重要性が指摘された。一方タイガ地域では近年森林火災が多発し、炭素収支に乱れを生じている。タイガと永久凍土は疑似共生関係にあり、森林火災などで攪乱を受けると、永久凍土の大規模融解を引き起こす。その結果、森林火災による直接的な二酸化炭素の大気への放出、火災跡地の二酸化炭素吸収機能の低下、永久凍土融解に伴うメタンガスの放出が連続して発生する可能性がある。その結果として、攪乱影響を受けたシベリア永久凍土は、温暖化効果ガスの放出源となることが予想される。しかし、シベリア永久凍土地域では、こうした一連の影響を観測する研究サイトがなく、研究上の空白域であった。本研究計画では、東シベリアのタイガ地域で、最近に大規模な森林火災が発生した箇所での温暖化効果ガスの収支を観測し、将来の地球温暖化への影響予測の定量化を目的とする。本研究成果は、京都議定書による温暖化削減の枠組（京都メカニズム）による日本・ロシアの共同実施への基礎データとしての活用が期待される。</p> | | | | | |
| 当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ） | <p>シベリアと地球環境問題・福田正己・岩波地球環境講座 第 8 巻、175-205,(1999)</p> <p>極北シベリア・福田正己・岩波新書、PP194、(1997)</p> | | | | | |
| 研究期間 | 平成 1 4 年度～ 1 8 年度（ 5 年間） | | | | | |
| 研究経費 （ 1 5 年度以降は内約額） | 平成 1 4 年度 千円 13,800 | 平成 1 5 年度 千円 9,200 | 平成 1 6 年度 千円 8,800 | 平成 1 7 年度 千円 8,800 | 平成 1 8 年度 千円 3,400 | 合計 千円 44,000 |
| ホームページアドレス | http://frost2.lowtem.hokudai.ac.jp | | | | | |